

平成24年7月25日

甲府市長 宮島 雅展 殿

NPO法人山梨水晶会議  
会長 宮川 守

## 要 請 文

貴市におきましては、日頃より当NPO法人山梨水晶会議の活動、とりわけ水晶鉱山跡の産業遺跡保存活動にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。

山梨はその地質的特徴により古代から水晶が産出し、江戸時代からは水晶研磨産業の発展が図られてまいりました。1966年に行われた地質調査において、ペグマタイト中に水晶が存在することが判明しております。(「山梨県金峰山地域の花崗岩類とペグマタイト」松原秀樹論文・資料 )

甲府盆地北部の花崗岩帯に確認されている旧水晶鉱山は、向山鉱山(御巢鷹山中心)、黒平鉱山(精進湖沿い上部)、水晶峠、バッテリー鉱山、乙女鉱山(荒川を挟んで西側・東側は牧丘)などがあります。私たちNPO法人山梨水晶会議は、平成21年設立以降山梨の貴重な水晶鉱山跡の調査を重要な活動の一つとして位置づけ、乙女鉱山 牧丘側、八幡山、水晶峠などを十菱駿武先生率いる山梨学院大学考古学研究会と共同で調査してきました。

そのうち甲府北部につきましては、今年6月30日に水晶峠とバッテリー鉱山跡を調査しました。さらに、4月30日と7月14日の2回、乙女鉱山甲府側の調査(乙女鉱山甲府側測量図・資料 )を実施し、非常に貴重な水晶群晶洞窟(資料 写真-1)があることが分かりました。

そこには、かつて本格的に採掘したと考えられる坑口跡(資料 写真-2)及びトロロコ軌道跡(資料 写真-3)、さらに飯場跡とみられる場所の上方には大量の水晶入りコンクリートブロック(資料 写真-4)が多数散乱しています。

このエリアは、乙女鉱山の牧丘側と比較して乱掘・盗掘が進んでおらず、現在も望ましい状態が維持されています。しかし、林道脇の水晶脈においては、盗掘と考えられる穴及び水晶群晶の剥がされた跡(資料 写真-5)が確認されました。

以上の調査結果から、このエリアは水晶脈が存在する可能性が非常に高いと言えます。こうした貴重な水晶資源が心ない盗掘によって破壊されないよう、守っていかねばならないと考えます。

具体的な対応としては、地質学的にも貴重なこのエリアを子供たちの教育に役立てていくこと、長期的な展望に立った観光資源としても調査を重ねていくこと、さらに 確認された水晶群晶を市の天然記念物にしていくこと、などが考えられます。

以上、簡単ではありますが、NPO法人山梨水晶会議の要請といたします。他県にない「山梨の水晶」を地域資源・地域資産として大切に、当法人と貴市との協働でさらなる活性化につなげていけるよう、ご協力をお願い申し上げます。